

## 多言語音声ガイドの貸出スタート



音声ガイドを使用して見学する入館者



このマークの場所で解説を聞けます



各ポイントの番号を押すと解説が流れます

2025年3月1日より、多言語音声ガイドの有料貸出を開始しました。

当館では、2004年にほぼすべての展示に英語訳を付け、2021年には、未対応となっていた展示室の証言映像に英語字幕を付けるなど、外国からの訪問者への対応を進めてきました。今回、入館者の要望に応じて、日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語の5言語対応の音声ガイドを導入しました。

当館の第3展示室では、ひめゆり学徒隊生存者の証言映像が上映されています。音声ガイドを装着して入室すると、自動的に選択した言語の音声流れ、日本語以外の言語でもスムーズに視聴できるようになりました。また、陸軍病院壕や伊原第三外科壕(ガマ)の実物大模型の前では、生存者の証言を音声で聞くことができます。

館内29か所に解説ポイントを設置しました。解説時間の合計は41分、利用料は300円です。展示を補足する解説もあります。家族連れなどにもご利用いただいています。

### CONTENTS 目次

- ◆ 多言語音声ガイドの貸出スタート ..... 01
- ◆ 体験者なき後、どのように継承していくか  
一戦後80年に寄せて ..... 02
- ◆ トピックス ..... 03
- ◆ 2025(令和7)年度の主な事業・イベント・出版 ..... 04
- ◆ 資料館の動き ..... 05
- ◆ コラム相思樹 ..... 05
- ◆ 仲宗根改善日記抄(70) ..... 06
- ◆ 本棚(仲程昌徳) ..... 07
- ◆ 統計に見る2024年度 ..... 08

# 体験者なき後、どのように継承していくか

## —戦後80年に寄せて—



ひめゆり平和祈念資料館 館長 普天間 朝佳

ひめゆり平和祈念資料館は、36年前、ひめゆり学徒たちの同窓会である「ひめゆり同窓会」によって設立された民立・民営の施設です。元ひめゆり学徒のみなさんは資料館をつくただけでなく、その後の運営も自分たちの手で行ってきました。

そして、自分たちがいなくなった後も、未来にわたって戦争体験を伝え続けていくことができるように、25年ほど前から次世代継承の取り組みを始め、現在は彼女たちからバトンを受け取った私たち戦後世代の職員が館の運営や戦争体験を伝える活動を担っています。

ひめゆり資料館での継承の取り組みは、元学徒の「証言員」と非体験者の職員と一緒に仕事をする中で日常的に行われました。またそれは、体験者から非体験者への一方的なものではなく、双方向的なものでした。

戦後80年目の現在、体験者と非体験者との協同による継承はもちろん、体験者から直接話を聞くことさえもとても難しい時代に入っています。今、体験者なき後の継承をどうするのかということが大きな社会的課題となっています。

私たちのひめゆり資料館のような平和施設には、体験者たちが残してくれた、たくさんの手記や音声、映像などの証言記録があります。今後は、これらの体験者から託されたかけがえのない資料を活用し、戦争体験の継承の取り組みを行っていく必要があると考えます。

さらに近年は、ワークショップやロールプレイ、ピアガイドなどの手法を活用した取り組みも盛んに行われるようになっており、戦争を「自分ごと」として考えるための学びの取り組みが広がっています。当館でも2年前から若い世代向けの「高校生が同世代に伝えるためのワークショップ」という取り組みを始め、今後も引き続き能動的で主体的な学びの取り組みを実施していきたいと考えています。



リニューアルに向けた元学徒と職員のミーティング(2020年)



高校生のワークショップの様子(2025年)

## ■「第7回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」受賞作品決定

「第7回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」の受賞作2作品が決定しました。「ひめゆり映像賞」は、晃華学園高等学校 A チームのアニメーション作品「Flower that never dies」が受賞しました。ひめゆりの生徒たちの視点を想像しながら、「知らなくても良いこと」に迫り、そのアプローチに集中して制作した点が評価されました。「特別賞」は、同じく晃華学園高等学校 B チームの「Never again」が受賞しました。ひめゆりの歴史を海外の人々にも理解してもらいたいと、日本語、英語、中国語と多言語での発信を意識した点が評価されました。晃華学園高等学校の受賞は昨年に引き続き2回目となります。

4月2日、同校の来館に合わせて表彰式を開催し、普天間朝佳館長から賞状と賞金が手渡されました。受賞者は受賞の喜びと、戦争という悲惨な歴史から目を背けず平和な未来のために学びたいという思いを語りました。選考委員で映画監督の宮平貴子さんも参加し、生徒たちを激励しました。

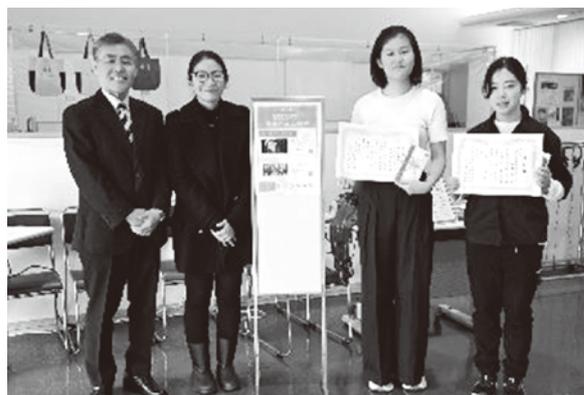
映像コンテストは、今年度も夏頃より開催し、締め切りは年明け1月予定です。ご応募お待ちしております。

作品は、当館公式 YouTube チャンネルよりご覧になれます

<https://www.youtube.com/@himeyuripeacemuseum763>



選考委員の宮平貴子さんから受賞者への激励の言葉



普天間館長より賞状と賞金を受けとった受賞者

## ■「ひめゆり平和祈念資料館 戦後80年移動展 ひめゆりと八重山」開催のお知らせ

2025年8月に八重山平和祈念館（石垣市）と共催で「ひめゆり平和祈念資料館 戦後80年移動展 ひめゆりと八重山」を開催いたします。県内での移動展としては4回目となります。

これまでの移動展に寄せられた感想から、展示会開催地域出身のひめゆりの生徒の存在が、沖縄戦やひめゆりへの関心を高めることがわかりました。今回も、ひめゆり学徒隊の沖縄戦体験に加え、八重山出身の生徒と教師18人を紹介します。ひめゆり学徒隊の戦争体験を通して「戦場になったらどうなるか」を知り、あらためて平和について考えるきっかけとなることを願っています。会期は2025年8月1日（金）から8月31日（日）です。皆さまのご来場お待ちしております。

### ひめゆり平和祈念資料館 戦後80年移動展

### ひめゆりと八重山

【期間】2025年8月1日（金）～8月31日（日）

【会場】八重山平和祈念館（第2展示室）月曜休館

主催：ひめゆり平和研究所

共催：八重山平和祈念館

初日の8月1日にオープンセレモニーを開催します。  
会期中には、石垣市にてワークショップや朗読会などのイベントを開催予定です。

- 〈展示内容〉
- ひめゆりの沖縄戦
  - 八重山出身のひめゆりの生徒たち
  - ※八重山で動員された学徒隊の展示も行います

## ■ 「塗魂ペインターズ」による塗装ボランティア実施

2025年4月9日から4月12日まで、塗装ボランティア集団「NPO 法人塗魂ペインターズ」による外壁等の塗装作業が行われました。この団体は、全国の塗装店で構成され、「塗装のできる社会貢献」を掲げ、国内外で200以上の塗装ボランティア活動を行ってきました。当館を訪れたメンバーの申し出がきっかけで、今回のボランティアが実現しました。必要な材料や資材は、協賛企業各社や協力企業から提供されました。佐々木拓朗会長をはじめ、4日間で県内外からのべ130人がボランティアとして参加しました。家族での参加も見られ、一生懸命壁を塗る子どもたちの姿もありました。作業の合間に、多くの参加者が展示を見学してくださいました。

戦後80年の節目に、資料館は見違えるほど美しくなりました。「ペンキ塗りで平和を伝える活動に貢献したい」との思いで塗装に取り組んでくださった「塗魂ペインターズ」の皆さまに感謝し、今後も平和の大切さを伝え続けていきたいと考えています。



外壁を塗装する様子



作業を終えた塗魂ペインターズのみなさん

## ■ 沖縄県主催「沖縄のこころ」平和啓発シンポジウムに館長登壇

2025年1月19日、東京都新宿区のJICA 地球ひろばで開催された沖縄県主催「『沖縄のこころ』平和啓発シンポジウム」に、館長の普天間朝佳が登壇しました。

歌手の宮沢和史氏の基調講演では、当館を訪れて沖縄戦を知ったことがきっかけで、「島唄」が誕生したことが紹介されました。パネルディスカッションでは、宮沢氏に加えて、玉城デニー沖縄県知事、豊崎中学校教頭内山直美氏、JICA 国際協力専門員小向絵理氏、普天間が登壇し、沖縄戦の教訓と次世代への継承に関する各現場での実践報告などが行われました。普天間は、若い世代がワークショップで学んだ後、同世代に伝える体験をすることで、「自分が伝えていく」という自覚につながると紹介しました。玉城知事は、平和がなければ未来はないということを県民皆で考える機会を多く作る1年にしたいと語りました。

## ■ 2025(令和7)年度の主な事業・イベント・出版

当財団は2025年度に、以下の事業およびイベントをおこないます。

▶ 戦後80年移動展「ひめゆりと八重山」開催(8月1日～8月31日)

オープンセレモニー(8月1日)、ワークショップ(8月2日)、朗読ワークショップ(8月23日)、朗読会(8月24日)

▶ 「第8回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」(夏頃募集開始)

● 編集・発行 『感想文集ひめゆり第36号』、『年報第36号』、「資料館だより」第75号・第76号

## 資料館の動き (2024年12月～2025年5月)

2024年

12月24日～1月6日 冬休みガイダンス実施 (計21回)

2025年

1月11日 石垣市主催「令和6年度石垣市平和フォーラム」で学芸員の前泊克美が講話 (於：石垣市役所)

1月14日 沖縄県主催「記憶継承 (博物館連携) に関する有識者会議」 (於：糸満市) に館長の普天間朝佳が出席

1月19日 沖縄県主催「沖縄のこころ 平和啓発シンポジウム」 (於：東京都新宿区) に館長の普天間朝佳が登壇

1月30日 「沖縄県修学旅行推進協議会平和学習分科会」 (於：那覇市) に説明員の仲田晃子が出席

JICA主催 国別研修コロンビア「和解と平和に向けた教育強化研修」

2月 1日 カンボジア地雷対策センター (CMAC) 職員の視察研修受入

2月 9日 「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」設立会議 (於：南風原町) に館長の普天間朝佳が参加

2月10日 「第7回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」選考委員会開催。ひめゆり映像賞、特別賞の2作品決定

2月24日 通訳案内士対象の音声ガイド体験会実施

3月 1日 音声ガイド貸出開始

3月18日 「第7回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」の受賞作品 (ひめゆり映像賞、特別賞) をホームページにて発表

3月21日～4月6日 春休みガイダンスを実施 (計15回)

3月30日 「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」全体会議 (於：南風原) に館長の普天間朝佳が出席

4月 2日 「第7回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」表彰式。受賞した晃華学園高等学校Aチーム、Bチームの修学旅行での来館にあわせて開催。選考委員宮平貴子氏が出席

4月 9日～4月12日 「NPO法人塗魂ペインターズ」による塗装ボランティア実施

5月 3日 那覇市で行われたシンポジウムにおいて、西田昌司参議院議員が、ひめゆりの塔の説明について、「ひどい」、「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆりの隊が死ぬことになっちゃったと。そして、アメリカが入ってきて、沖縄は解放された」といった文脈で書いてあった、としたうえで、沖縄は、「地上戦の解釈を含めかなり無茶苦茶な教育のされ方をしている」と発言。県内の放送局が報じる。夕方、館長の普天間朝佳が県内新聞社の取材に応じ、西田議員が話しているような説明は、過去にも現在もないことを伝える。翌日以降、関連報道が相次ぎ、取材や確認などの対応に追われる。

## コラム 相思樹

「ひめゆりと八重山」展の展示づくり

説明員 宮城奈々

8月1日より、石垣市にて八重山平和祈念館との共催で、戦後80年移動展「ひめゆりと八重山」の開催を予定しています。現在、その展示制作の真つただ中にあります。

私は、八重山出身のひめゆりの生徒と教師を紹介するテキストを3人分担当しました。限られた文字数の中で、生徒たち一人ひとりの人柄や体験をどう表現すれば伝わるのか、どのエピソードを選ばべきか、担当の職員みんなで検討を重ねながらテキストを制作しました。

資料を読むうちに、彼女たちの戦時中の過酷な体験や、亡くなった生徒の最期生き延びた人たちの戦後の苦しみ、そして亡くなった生徒の家族の気持ちについて触れ、改めて戦争のむごさを感じました。当時の状況を想像すると胸が痛みます。

今回、石垣市での開催ということで、普段はなかなか資料館に足を運ぶことができない方々にも展示を見てもらえる機会になると感じています。八重山出身の生徒や教師を紹介することで、来場する皆さんに身近なものとして捉えてもらい、沖縄戦に対する関心を高める機会になればと考えています。

戦後80年という大事な節目での石垣市開催です。充実した展示になるよう準備を進めていきたいと思えます。

## 仲宗根政善日記抄(70)

### (1980年)六月二十三日 慰霊の日

(前号よりつづき)慰霊祭が終って、一こと遺族の方々にご挨拶申し上げた。

三十三年忌にお友達の方々が、なくなられた皆さまのお子さま方の写真をあつめてアルバムを作りました。それは同窓会館におさめてあります。実はそれを印刷しておくばりしたいと思っていましたが、今度前に出した、沖縄の悲劇を再版しましたので、それに写真を添えることにして、今日霊前におそなえしました。ところが中にぬけているのがありまことに申し(し)訳なく、忍びない気持ちであります。どうぞ、写真をお持ちの方がおられましたら、ご提供下さいますように。あるいは、またの機会にそう入ることが出来ると思っております。

お祈り終了後、遺族の方々がよって来られた。すでに受取られた方々もあるようだが、まだの方々も多い。中には写真がぬけているとも申し出られた。上地ヨシ子がたしかにぬけている。申し訳ないと思った。そのことのあることを前から気にしていたのである。再版にはどうしても全員をのせたい。

### (1980年)七月一日

(前略)六月十九日木曜\*伊原部落の前の道端で砲弾でぶっ倒れ、意識は次第に消えて行った。その中に蛍光のよう(に)光る親妻子の顔があった。南無阿弥陀仏とたしか三度となえて、この世との別れをつげようとしたのであった。やっと意識を回復して首すじに手をあててみると頸動脈すれすれに傷を受けていたらたら血が流れていた。

再びこの世の光を仰げるだろうかと思ったこの生が、戦後の苦難にもたえて、今日に至っている。タイムス賞の新聞が出ている。自分が仕事をしたとか、どうのということではない。ただ死ぬべき命ながらえて、親妻子、朋友から喜ばれる。いかなる神の加護によって生へのかけはしを渡れたのか、ただ運命の不思議を思う。

ナイガラの瀑布をたずねたとき、瀧壺に突出した岩角があった。しぶきをあびて小草がゆかしく咲いていた。私は自分の生命の不思議をその小草に感じた。しかし、幾萬幾億の小草の種子はあの瀧つぼへとおちこみ沈んで行ったのである。

「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」に、私はなくなった生徒たちの遺影を添えた。喜屋武断崖においつめられて、死と直面したとき、誰にも知られず岩かげに朽ちて行くことがたえられない寂しさを感じたからであった。

巖頭から死の淵へとつきおとされて行った二百十名の職員生徒の遺影を前にして生と死のはるかなるへだたりをしみじみと感じる。

夜の仏桑(華)は空にむかって真紅に輝く。しかしその根から幾十万の生霊の血がしみあがってくる。花は生と死との機会のようにして、赤い。

### (1980年)七月二日

崎間恵子さんから電話があった。「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」を只今読み終りましたと、涙にうるんだような声であった。三十五年目の慰霊祭にはじめて参加した。終戦直後、石川のテント小屋に住んでいた頃、近く(に)住んでいて、お友達が訪ねて来て、戦争の話をする、その夜は、きまって熱発して、うなされるので、母はきずかって、友達が来ないよようにとさけておられた。それで、私も遠慮して行かないことにしていた。それから五か年もたってやっと友達と一緒にひめゆりの塔を訪ねた。壕のへりにつかまって底をのぞいた。お友達の顔がいっせいに、むいたようであった。ガス弾をほ(う)りこまれる前に、外間安子が、血相をかえて狂ったように抱きついて、あなたは生きる運命私は死ぬ運命、私がここで死んだことを、今帰仁の大井川にいる母に知らせてくれとわめき立てた。あの外間さんの顔が向ってくる。崎間はぞっとして身をひいた。むせび泣いている崎間はついて来た友達から袖をひかれて帰った。あれから二十年もたったが、一度も、ひめゆりの塔を訪ねたことはなかった。

今度三十五回忌に、やっと人目をしのぶようにして慰霊祭に来て、誰よりも先に来て、花をそなえてお祈りをした。

電話で そのことをそっともらしていた。お友達が多くそろった頃、その中をわけるようにして、私のところにより、やっと来ましたと、ほっとしたように言っていた。

今、心を静めるために神仏にすがっているという。

戦争でもっとも痛手をうけているの(は)崎間さんである。多くの生き残りは、戦争の体験をいかして、強く生きぬいているように感じられる。しかし、崎間さんは、戦争体験の重圧におしつぶされようとしている。やっと支え支え生きている。誰よりも苛酷な体験をへている。伝えようとしても真面目に聞いてくれる相手がない。理解もせず聞いてくれる者がいないので、心底におしこめられてうつつしているとのが、時に岩をわるようにしてほとぼしることがある。語気もあらくせきこんでくる。

選挙の宣伝カーが通る。基地を容認する革新だと、むかっとなって、じっとしておれない。参議院候補 喜屋武真栄氏があぶないと伝えたとき、必死になって、隣近所、親戚を訪ね歩いて、革新を勝たせよと運動して廻ったともいう。一般の者には、あるいは異常とも感じられよう。しかし、ずっとその苦悩を知りつくしている私には、異常とは思われない。あれほどの苛酷な戦争体験を扱っておれば、そうなるのが当然で、平然としているのがむしろ異常とさえ感じる。

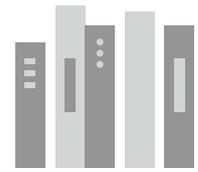
\*1945年6月19日のこと。ただしこの日は木曜ではない

※読みやすさを考慮して、旧字体は新字体へ変更した。明らかな誤字は改め、脱字や送り仮名、その他必要な情報を( )で補った。

本棚  
仲程昌徳

## 『ももちゃんのピアノ 沖縄戦・ひめゆり学徒の物語』

文／柴田昌平 絵／阿部結 ポプラ社 2022年



ピアノの音色に魅了された少女の名前は「ももちゃん」。あこがれのピアノが弾きたくて難関の師範学校女子部へ入学。女師・一高女の生徒たちは、沖縄戦でいわゆる「ひめゆり学徒隊」として知られるようになるが、「ももちゃん」も、その一員として陸軍病院壕で傷病兵の看護にあたることになる。物語は、「ひめゆり学徒隊」の戦場を中心に、逃避行、生還、結婚そして高齢になるまでピアノの音色に支えられて生きる「ももちゃん」を描いていく。

ももちゃん・与那覇（旧姓上地）百子は、戦後、沖縄を離れ、「東京・埼玉に四〇年余住んで」いて、「その間ひめゆり学徒隊の生き残りとして各地区の平和講演会で体験を話し」ていたが、2005年に那覇に戻り、2006年から08年まで、ひめゆり平和祈念資料館証言員として活動するとともに、いくつもの貴重な手記や証言を残していた。

そのうちの一つは、渡嘉敷良子に関する証言である。重傷を負い、南風原陸軍病院壕から連れ出すことのできなかった渡嘉敷が、戦後、宜野座の病院に収容されていた。そのことについて『沖縄の悲劇—ひめゆりの塔を巡る人々の手記』（1951年7月10日 華頂書房）は、「一人の生徒が訪ねて来て渡嘉敷が宜野座病院にかつぎこまれていることを知らせた」と書いていた。知らせた生徒が誰だったのか、明らかになったのは、「仲宗根先生が近くにいらっしゃるそうだから、お連れするわね」と言い置いて、私は病室を後にしました」（『生かされて生きて』2011年 道友社）という証言から、与那覇であったことがわかったのである。

渡嘉敷に関する箇所は、引率教師の苦悩が刻みこまれていて、『沖縄の悲劇』の大切な箇所である。仲宗根と渡嘉敷の対面の場面、そしてその帰路の仲宗根を襲った悔恨の情は、読むものを肅然とさせ、戦争がいかに理不尽であるかを教えてくれるのだが、それは、与那覇の導きがあって、生まれた場面であったといえないことのないのである。忘れられない証言の一つであった。

あとの一つは、『ももちゃんのピアノ』を書く動機を与えたと思われる次のような証言である。

昭和二十年三月二十二日のことです。いつものように音楽

室で私がピアノを弾いていると、音楽を専攻している上級生と、東風平先生が音楽室へやって来ました

私はまず上級生にお願いして、ベートベンのピアノソナタ第十六番を弾いてもらいました。

次に、東風平先生にお願いしました。

「先生も何か一曲、弾いてくださいませんか」

「分かった、それじゃ・・・」

東風平先生はすぐにピアノを弾き始めました。ベートベンの「月光」でした。

夕日が差し込んでオレンジ色に染まる教室に、柔らかなピアノの音が響きます。

与那覇はそのあと「しばし戦争のことを忘れ、天にも昇るような心地」だったと書いていたが、まさしく天恵であったとしかいいようのない出来事であった。

証言の日付を見ると「昭和二十年三月二十二日」。翌3月23日は、女師・一高女の生徒たちが、校長住宅の庭に集まり、校長の訓辞を聞き、南風原陸軍病院に向かった日である。与那覇は、「ひめゆり学園」での最後の日、先生と上級生の弾くベートーベンの曲を聴くことができたのである。外国の曲など口にするこさできないばかりか「ドレミファソラシド」表記が「ハニホヘトイロハ」に置き換えられたといった時代である。

3月23日以降、与那覇の前からピアノは消え、その音色が聞けるようになるのは戦後になってからのことで、『ももちゃんのピアノ』は、そこを補っていて貴重である。

『ももちゃんのピアノ』は、「白鍵と黒鍵をかいて、つくえに」はって「手製のピアノ」をつくって夢中になっていたころから、「ひめゆり学園」で上級生や先生の弾くピアノの楽曲に心を奪われた時期、動員で戦場へ、そして戦後、教会でのピアノとの出会いがあり、大学生たちとの音楽鑑賞会があり、結婚、上京、帰省、だんだん身体が不自由になり、大好きなピアノを自由に弾くことができなくなるまでの軌跡を描きこんでいた。それは、困難な時代に、音楽にあこがれて生き抜いた異色の「ひめゆり学徒」がいたことを取り上げたもので、「ひめゆり学徒隊」を新しい局面から照らし出して見せたものとなっていた。

# 統計に見る2024年度

2024年度の入館者数は、2023年度比で107%の増加となりました。ただし、コロナの影響が少なかった2019年度(491,345人)と比べると、約82%にとどまっています。

## 1 入館者状況

### ①有料 403,747人

2023年度 376,159人より **+27,588人 107%**  
うち外国人 7,948人、前年度比 +902人  
※2021年度より、慰霊の日是有料入館

開館以来 36 年間で **32 番目**の入館者数  
平均入館者：**33,645 人(1 か月) 1,106 人(1 日)**  
開館以来 35 年間の累計：**24,466,521 人**  
(1989 年度は開館期間 9 か月間)

### ②無料 23,756人

団体(県内学校団体・特別支援学校・一般団体含む) …………… 5,576 人  
学校団体引率者 …………… 12,696 人  
修学旅行下見 …………… 1,333 人  
個人免除者(身障者手帳等提示の方など) …………… 4,151 人

※県内学校団体および特別支援学校は入館料免除のため総入館者数には含まれないが、「2. 学校団体入館状況」(団体数・人数)には含まれる。

## 2 学校団体入館状況

### 学校団体数 1,438校/180,761人

2023年度1,354校、176,851人に比較すると、**+84校、+3,910人**。全体の割合は、小学校81校・5%、中学校444校・31%、高校913校・64%。前年度比で約**106%**(団体数)増加。コロナ前の2019年度1,838校(246,049人)と比較すると約78%(団体数)にとどまっている。

## 団体プログラム(平和講話・ビデオ視聴)のご案内

当館では、平和学習プログラムとして、職員による平和講話(約40分)やビデオ視聴(約30分)を提供しています。プログラムは多目的ホールにて、団体貸切で行います。事前予約が必要となりますので、電話で空き状況を確認後、FAX・Webフォーム等でお申し込みください。

### ▶対象:当館を見学する団体 ▶実施時間帯:9:05~16:00(最終開始時間)

- 予約時間に遅れた場合、予約状況によってはキャンセルとなる場合もあります。
  - 収容人員は約200人(席)です。
  - 多目的ホール使用料 1回:3,300円(同一団体2回目以降は2,200円) [くわしくはこちら▶](#)
- ※多目的ホールは、セレモニーや会議等、上記平和学習プログラム以外での貸出は行っていません。



〈下記の期間はご予約はできません〉

- 年末年始(12月30・31日、1月1日~3日)、旧盆(旧暦7月13日~15日)、慰霊の日前後(6月21・22日、24日)はビデオ視聴のみ予約可能です。
- 慰霊の日(6月23日)は講話・ビデオともに予約できません。

### Information

- ・ 開館時間 9:00am-5:25pm(入館締切は5:00pm)
- ・ 年中無休 ※台風などで路線バスが運休の場合は休館
- ・ 入館料 [個人]大人450円 高校生250円 小中学生150円  
[団体]大人400円 高校生200円 小中学生110円  
※団体料金は20名様以上、一括払い。 ※団体入館は予約制です。必ず事前にご予約ください。

ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより  
第75号 2025(令和7)年05月31日発行

【編集・発行】  
公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立ひめゆり平和祈念資料館  
〒901-0344沖縄県糸満市宇伊原671-1 TEL098-997-2100 FAX098-997-2102

